

2019年11月20日

SDGs 推進本部 本部長

内閣総理大臣 安倍 晋三 様

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン

## 持続可能な開発目標(SDGs)実施指針(改定版)の骨子についての意見

2019年9月の国連総会では、「SDG サミット」が開催され、首脳レベルで、過去4年間の取り組みの評価が共有されました。サミットの成果文書として、「SDG サミット政治宣言」が採択され、極度の貧困、子どもの死亡率、電気や水へのアクセスなどで進展が見られたものの、飢餓、ジェンダー、格差、気候変動、海洋プラスチックごみなどの環境破壊への対応が遅れており、進捗に偏りがあることが指摘されました。そして今後10年を「行動の10年」とし、資金や実施体制の強化を行い、各国が目標達成にむけたアクションを加速することが期待されています。また、ドイツ最大の財団のベルテルスマン財団と持続可能な開発ソリューション・ネットワークが発表した「SDG Index and Dashboards Report」の2019年版において、日本は、目標4(教育)、目標9(イノベーション)では達成度合いが高いと評価される一方、目標5(ジェンダー平等)、目標10(不平等)、目標12(責任ある消費と生産)、目標13(気候変動)、目標17(パートナーシップ)では、達成度合いが低く、さらなる取り組みが求められています。上記認識から、私たちは、SDGs 実施指針(改定版)の骨子に、以下の事項を盛り込むことを、強く要望します。

### 1. 優先課題に、日本の進捗が遅れているとされるジェンダー平等を明記し、取り組みを加速すること

2030アジェンダにおいて、「ジェンダー平等の実現と女性・女の子のエンパワーメントは、SDGsのすべての目標の進展において死活的に重要な貢献をするものである」と明記されている一方、2030年までにジェンダーの平等を達成できる目途が立っている国は、世界のどこにもなく、日本も含む各国で進捗の遅れが見られる分野です。これまでの進捗状況を踏まえつつ、ジェンダー平等を独立した優先課題として位置づけ、取り組みを加速することが必要です。

### 2. ジェンダー平等の進捗を測るためのフォローアップレビューを強化すること

2016年の国連女性の地位委員会(CEDAW)において、日本は、先住民女性、マイノリティ、障害のある女性、移民女性の労働者に関する統計を作成していないことが勧告されています。また、プラン・インターナショナルは他団体と協働して、SDGsのすべての目標にジェンダー視点を組み込んだ独自の指標を設定し、ジェンダー平等の進捗を捉えなおす「Equal Measures2030」という取り組みを推進しています。この指標をもとに日本のSDGsの達成度合いをみると、調査母数が減じているにもかかわらず、ベルテルスマン財団が発表している15位よりさらに21位へと後退しています。もっとも進捗の遅れたジェンダー分野の細分化されたデータ・統計の体制を整備し、進捗をレビューしていくことが必要です。

### 3. 実施指針とアクションプランとの関係性を明確にし、2030年までのロードマップを示すこと

現状半年に1度改定されているアクションプランは、3本柱を中核に構成されているものの、各省庁がすすめる施策の羅列となっており、指標設定やビジョンを具体的にすすめるアクションプランとなっていないと考えます。2030年に目指すビジョンにむけて、実施指針とアクションプランとの関係性を明確にし、2030年までのロードマップを示すことが必要です。

以上